

令和4年6月 気仙沼商工会議所 景気動向調査 概要版

(令和4年度第1四半期：令和4年4月～6月期実績、令和4年7月～9月予測)

全業種値でマイナスの値を示すものの、前年同期比で改善がみられる

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業・水産加工業に属する会員の中からそれぞれ6業種より20事業所ずつ合計120件を対象とし、うち97事業所(回答率80.8%)より回答。

調査項目は、①業況(自社)②売上額(建設業は完成工事(請負工事)額)③採算(経常利益)④資金繰り⑤従業員(含 臨時・パート)⑥経営上の問題点について調査を行った。

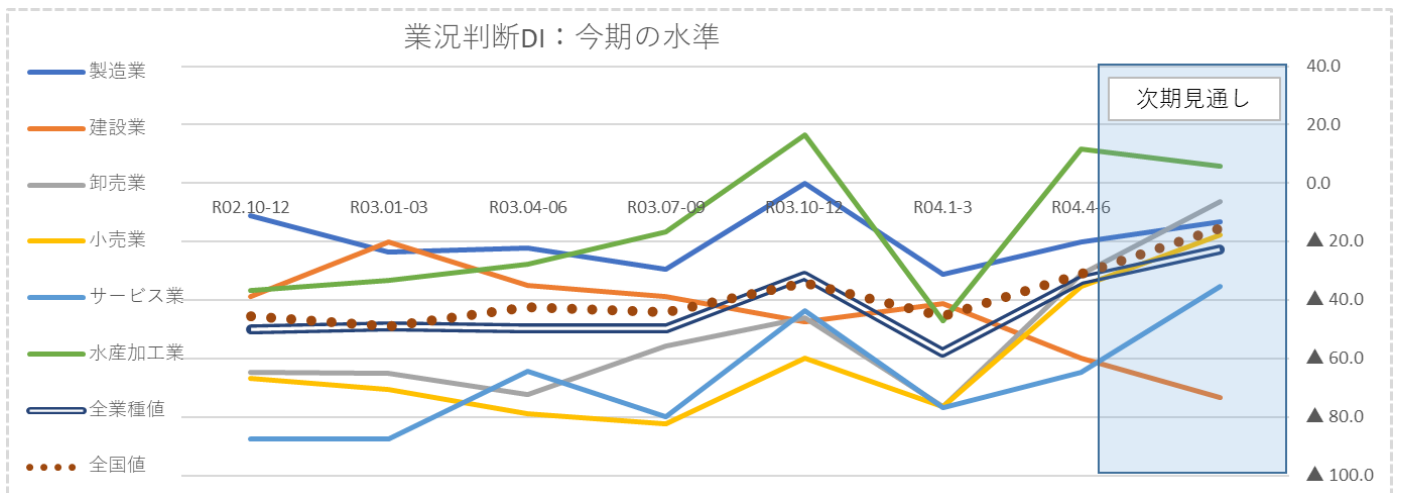
☆分析方法…【DIとは「増加(上昇、好転)」と答えた企業割合から「減少(低下、悪化)」と答えた企業割合を差し引いた値です。DIは0を基準としてプラスの値は景況が上向き傾向の企業割合が多いことを示し、マイナスの値は景況が下向き傾向の企業割合が多いことを示します。

＜前回値と比べ「好転↑」・「不変→」・「悪化↓」で表示＞

	業況DI			採算DI			従業員DI		
	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	4月～6月	昨年の4月～6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年の4月～6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年の4月～6月と比較	7月～9月予測
全業種値	▲33.0 ↑	▲4.1 ↑	▲22.7 ↑	▲16.5 ↑	▲13.4 ↑	▲24.7 ↑	▲25.8	▲14.4	▲8.2
①製造業	▲20.0 ↑	±0.0 ↑	▲13.3 ↑	13.3 ↑	±0.0 ↑	▲13.3 ↑	▲26.7	▲13.3	▲13.3
②建設業	▲60.0 ↓	▲53.3 ↑	▲73.3 ↓	▲20.0 ↑	▲40.0 ↑	▲53.3 ↓	▲20.0	▲20.0	▲13.3
③卸売業	▲31.3 ↑	±0.0 ↑	▲6.3 ↑	▲12.5 ↑	▲18.8 ↑	▲18.8 ↑	▲18.8	▲12.5	±0.0
④小売業	▲35.3 ↑	▲17.6 ↑	▲17.6 ↓	▲52.9 ↑	▲35.3 ↑	▲29.4 →	±0.0	▲17.6	▲11.8
⑤サービス業	▲64.7 ↑	±0.0 ↑	▲35.3 ↑	▲47.1 ↑	▲5.9 ↑	▲23.5 ↑	▲52.9	▲35.3	▲29.4
⑥水産加工業	11.8 ↑	41.2 ↑	5.9 ↑	23.5 ↑	17.6 ↑	▲11.8 ↑	▲35.3	11.8	17.6

※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。

【業況判断(業況DI)】

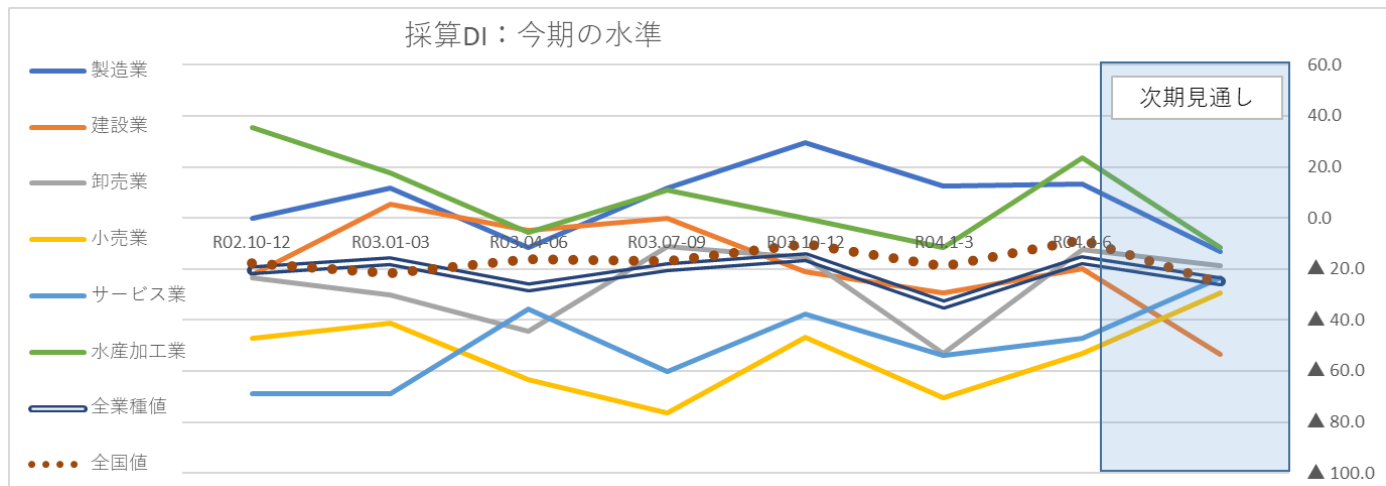


○当期の水準は、全業種値▲33.0、前年同期比▲4.1となり、全業種値が前回調査時よりも24.8ポイント増加し、前回調査時より業況のマイナス幅は縮小している。自由意見からも「コロナ感染者減少、GOTOの再開による旅行者の増加の見込み」等の回答があり、感染収束への期待がうかがえる。

業種別で見ると、当期の水準の「サービス業」で▲64.7、「建設業」で▲60.0を示す等、「水産加工業」以外の業種でマイナスを示した。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲22.7と、当期の水準よりはマイナス幅は縮小し、「建設業」「水産加工業」を除く4業種では20ポイント前後増加している。一方、「建設業」では▲73.3と厳しい見通しとなっている。

【採算DI】

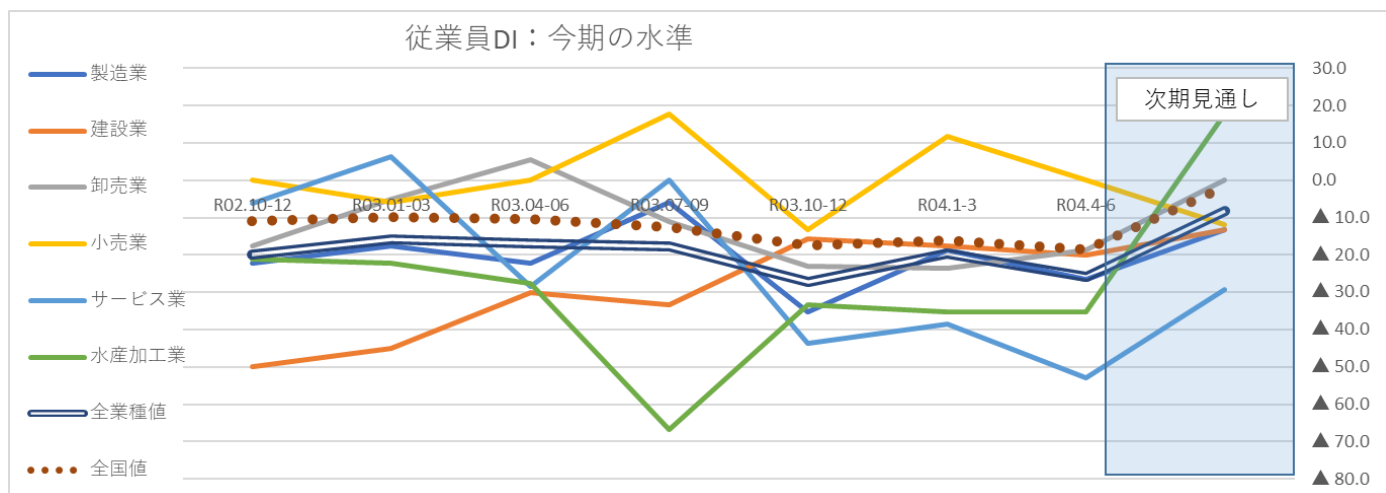


○当期の水準は、全業種値▲16.5、前年同期比▲13.4 となり、水産加工業で 23.5、製造業で 13.3 とプラスを示し、前回調査時との比較では全ての業種で悪化度合いが弱まった。自由意見からも「高齢者の顧客が多く、新規顧客が減少している」「資材・電子部品の入手が困難」「物価の急激な高騰、仕入単価が上昇するにもかかわらず、価格転嫁ができない」「ウクライナへのロシア侵攻の長期化や円安で原料、エネルギー価格の高騰によるコスト上昇」等の回答があり、採算の先行きが不透明であることを示す結果となった。

業種別で見ると、当期の水準の「小売業」で▲70.6、「サービス業」▲53.8、「卸売業」▲52.9 を示す等、マイナスを示した。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲24.7 となり、業種別で見ると、「製造業」「建設業」「水産加工業」では 30 ポイント前後減少し、今後の採算性への懸念が残る結果であった。一方「小売業」「サービス業」では 20 ポイント以上増加しているが、DI 値はマイナスを示し、厳しい見通しを予測している。

【従業員DI】 ※従業員 DI は、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。



○当期の水準は、全業種値▲25.8 となり、従業員不足を示している。「小売業」では 0.0 と唯一「適正」を示しているが、次期見通しでは▲17.6 と「不足」に転じている。「サービス業」▲52.9、「水産加工業」▲35.3 等、他の 5 業種では「不足」を示した。自由意見からも「地元出身の若手従業員の確保」「若い人の人材確保、熟練技術者の確保が難しい」「事業継承者の問題」等の声が挙げられている。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲8.2 と「減少」を予測しており、「小売業」で-11.8 ポイント下がるが、他の 5 業種ではポイントは増加しており、「不足」度合いが弱まる予測をしている。

【経営上の問題点について】…問題点は各業種によって異なっているが、上位は「原材料価格の上昇」39件(14.9%)・「原材料費・人件費以外の経費の増加」31件(11.8%)・「材料等仕入単価の上昇」30件(11.5%)・「需要の停滞」29件(11.1%)・「従業員の確保難」24件(9.2%)の順となった。(97事業所 回答262件・重複回答可)

〈製造業の主な問題点(回答17事業所)〉

「原材料価格の上昇」13件(86.7%)、「原材料の不足」8件(53.3%)、「従業員の確保難」5件(33.3%)の順であった。

〈建設業の主な問題点(回答17事業所)〉

「資材・材料価格の上昇」12件(85.7%)、「民間需要の停滞」8件(57.1%)、「官公需要の停滞」5件(35.7%)の順であった。

〈卸売業の主な問題点(回答16事業所)〉

「仕入単価の上昇」11件(73.3%)、「人件費以外の経費の増加」7件(46.7%)、「人件費の増加」5件(33.3%)の順であった。

〈小売業の主な問題点(回答17事業所)〉

「仕入単価の上昇」9件(52.9%)、「人件費以外の経費の増加」7件(41.2%)、「消費者ニーズの変化への対応」「需要の停滞」がそれぞれ6件(35.3%)の順であった。

〈サービス業の主な問題点(回答12事業所)〉

「材料等仕入単価の上昇」10件(58.8%)、「従業員の確保難」8件(47.1%)、「人件費以外の経費の増加」7件(41.2%)の順であった。

〈水産加工業の主な問題点(回答17事業所)〉

「原材料価格の上昇」14件(82.4%)、「原材料の不足」10件(58.8%)、「原材料費・人件費以外の経費の増加」8件(47.1%)の順であった。

その他(主な回答を抜粋)

製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼材価格の大幅上昇、電気料大幅値上げ ・ITリテラシーを上げようとしているが、社員教育が難しい。 ・必要な電子部品が6ヶ月～14ヶ月以上の納期となり機械が生産できない
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の人材確保、熟練技術者の確保が難しい ・資材の価格上昇によるコスト増、それに伴う工事代金の値上げの実施
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に比べれば好転しているが、コロナ禍以前までは戻っていない ・ハサップに準ずる設備のため資金が必要。投資してまで行う必要性があるのか。 ・輸出は伸びているが、国内消費(都内、仙台圏)の戻りが鈍い
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナも落ち行いってきているので、大人数での宴会が再開されることに期待します。 ・観光客の増加 ・従来からの常連客が高齢化し減少した。消費行動が高齢世代と違うため、中間世代以下の客を従来と同じような「常連客」にするのは難しい。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの感染者減少に伴い、GOTOの再開により旅行者の増加が見込まれる ・R4.4月～6月は円安の影響で輸出が伸びた ・高齢者の顧客が多く、新規顧客が減少している ・事業継承者の問題
水産加工業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナがこのところやや沈静化。このまま続けばマーケットが活況へ上向く ・光熱費の増加、冷凍保管費がかさむ

【付帯調査結果】

国際的な経済状況に係る付帯調査

『ウクライナ情勢』『原油価格高騰』『円安』『脱炭素』『SDGs』等による経営への影響や問題点について、またその原因について付帯調査を行った。（65事業所 回答151件）

（主な回答）

回答項目	ウクライナ情勢	原油価格高騰	円安	脱炭素	SDGs	その他
・電気料の大幅値上げ	○	○				○
・原油（燃料・ガソリン）価格高騰	○	○	○	○		○
・燃料費値上がりによる運送費値上げ	○	○	○			
・資材包材、電子部品の高騰	○	○	○	○		○
・原料、小麦、仕入価格高騰	○	○	○			○
・国際運航の制限	○					○
・ロシア産原料、海産物の高騰	○					
・中国産原料、海産物の高騰	○					○
・輸入物価の上昇	○	○	○			
・海外人材、実習生等の確保難			○			
・為替による影響			○			
・ハイブリッド車、電気シフト				○		○
・プラスチックゴミ減量					○	
・テイクアウトの容器対応					○	
・地震による火力発電の停止						○

具体的な要望

製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争が終結し、原発が稼働したとしても、10年は電力価格は戻らないと聞いている。対策はないように思うが、あればご教授願いたい。 ・助成金に偏りすぎないメッセージの発信がほしい。それにより具体的要望を考えられる。今は不安だけ。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・地方中小企業に対する支援がまったくみられないので、なんとかしてほしい。地元の基幹産業だけが企業ではない。もっと色々な企業の声をきいてほしい。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・電気料金値上りに対して、動力、高圧の事務所以外にも補助してほしい。 ・ウクライナ戦争が一日も早く終息することを願っております。そして世界が正常な取引ができるように、皆が努力することです。 ・燃油・電気料の補助はあるものの、間口が狭い。（商業扱いになっていないため、除外されている（使用料的には、十分対象可能な量になっている））
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のお金は地元で回すように地元だけで使える割増し商品券等を考えてほしい。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・円安の是正とガソリン価格への補助。 ・全ての税金の見直し。特に消費税。
水産加工業	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費の補助があると助かります。